

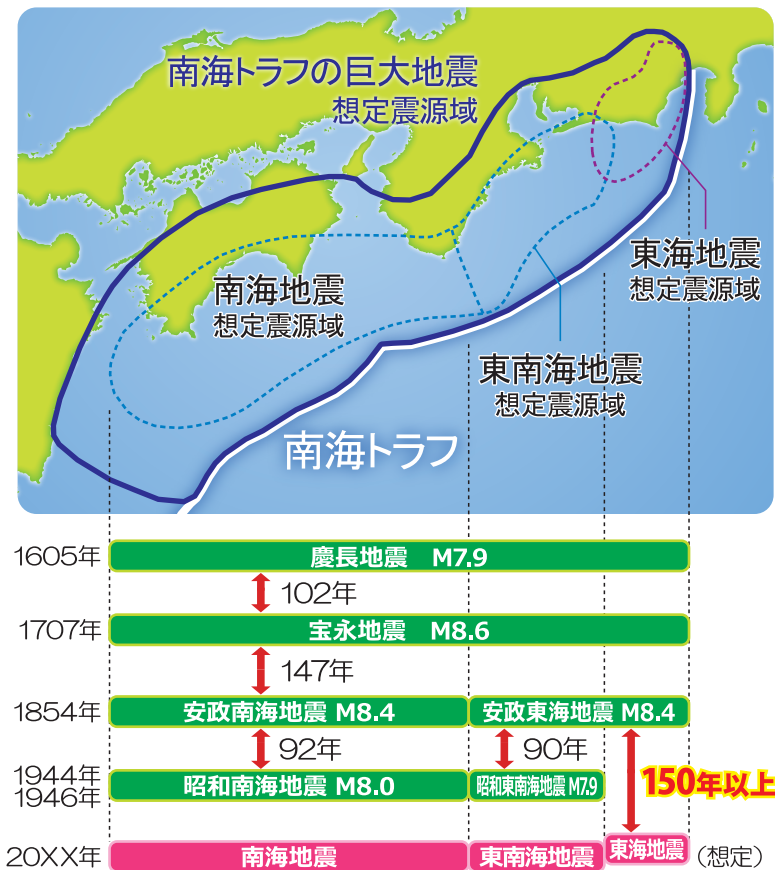
南海トラフ地震の震源域と発生状況

南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から沈み込んでいる場所です。

過去1,400年間を見ると、南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震(1944年)、昭和南海地震(1946年)がこれに当たります。

昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年近くが経過しており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まっています。

(参照:気象庁HP、内閣府HP)



阪神・淡路大震災の記憶

1995年(平成7年)1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の大地震、阪神・淡路大震災が発生し、6,400人余の命がなくなり、兵庫県南部を中心に未曾有の被害をもたらしました。淡路市においても、多くの被害を引き起こしました。北淡地区では野島断層の断層面が地表に露出し、地震の怖さを物語っています。

私たち、淡路市民は犠牲になられた方々のご冥福を永久にお祈りするとともに、月日の経過により記憶を風化させることなく、大震災で学んだ経験と教訓を後世に伝え続けることが重要です。

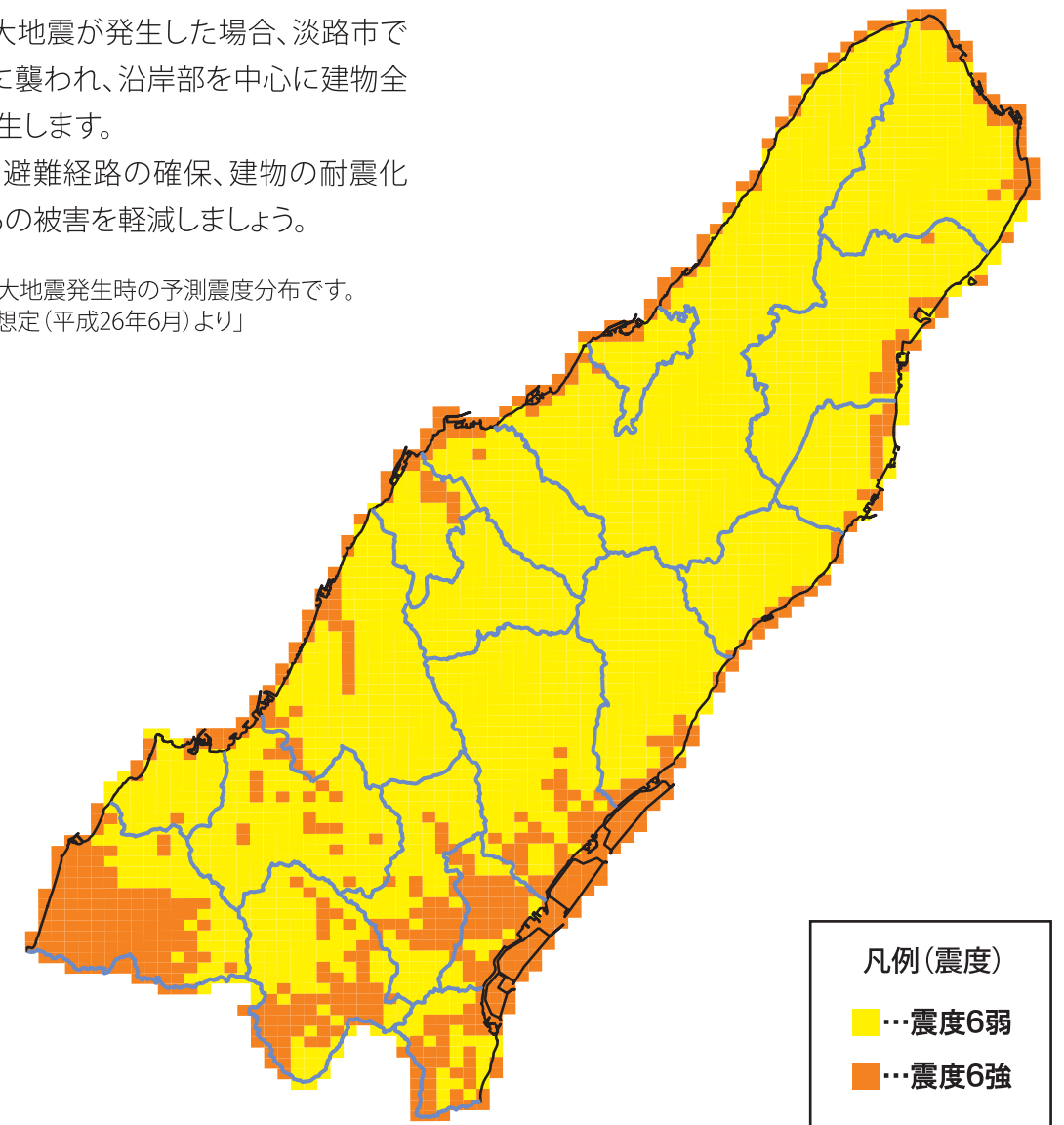


南海トラフ巨大地震〈震度分布予測図〉

南海トラフ巨大地震が発生した場合、淡路市では最大震度6強に襲われ、沿岸部を中心に建物全壊等の被害が発生します。

家具の固定や避難経路の確保、建物の耐震化を進め、揺れからの被害を軽減しましょう。

※図は南海トラフ巨大地震発生時の予測震度分布です。
「兵庫県地震被害想定(平成26年6月)より」



震度と揺れの状況(震度階級表)

震度4	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 	震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまると感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 	震度6強	<ul style="list-style-type: none"> ●はわなにと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなると歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	震度7	<ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

(参照:気象庁HP)